

地方航空路線活性化プログラムに係る 効果検証に関する懇談会（第2回）

発表資料（平成28年度取組実施計画（案））

平成28年3月4日

富士山静岡空港利用促進協議会（事務局：静岡県）

静岡～鹿児島路線（FDA）

ふじのくにと薩摩をつなぐドリーム

I 取組目標及び取組課題・方針

1. 取組目標

28年度夏ダイヤから年間通じてデイリー運航となることから、産業交流、観光交流などによる新たな需要拡大とデイリー運航の定着化を目指す。

【産業交流】新たな産業交流、サポーターズクラブ助成制度の再構築

【観光交流】路線利用に繋がる商品造成の拡大、両県の特性を生かした観光交流イベント開催

【幅広い年齢層へのアプローチ】スポーツ、文化団体にターゲットを絞った交流促進、閑散期における運賃助成

(目標設定) 平成28年度 搭乗者数 ※当初目標より6,700人増
36,000人(搭乗率65%)
76人機材での年間提供座席数55,480人
26年度 搭乗者数 27,098人(66.6%)
27年度(4-1月)搭乗者数17,704人(58.9%)

2. 取組の課題

- 夏ダイヤでのデイリー運航の実現により、路線の定着化を図るためにも、安定的な利用者の拡大が課題となる。これまでオフ・ピークの差が大きく、特に4-7月の閑散期における利用者が少ないなどの課題があるため、閑散期対策など、通年の安定需要の確保が必要となる。
- 夏ダイヤ期間の曜日運航等、利便性の低さから、静岡・鹿児島県両県における旅客流動総数約9.1万人のうち、当該路線の利用は約3割に留まっていた。平成28年夏ダイヤから毎日運航になることから、両県における周知の拡大や、より大幅な利用者の増加が求められる。
- 噴火等自然災害等による特殊状況下においても、安定した利用者を確保するためには、ビジネス需要の拡大が必須であり、増便による利便性向上を機会として、産業交流促進を最重要課題として取組を実施する。
- 観光交流については、これまで路線周知に重点を置き、認知度向上は図れたが、直接的には路線利用につなげられなかった。

3. 平成28年度の取組方針

通年デイリー運航の定着化を図るためにも、昨年の週3往復からデイリーとなる夏ダイヤ期間の需要拡大を重点的に取り組む。

1 産業交流によるビジネス需要創出

両県経済団体を中心とした産業交流連携体制を構築し、両県共通産業である茶業、漁業における交流促進のみならず、食品産業、機械工業等他産業間での交流を図る。

- ビジネスキャンペーン(運賃助成)の制度改定・対象拡大及びPR
- 双方向における産業交流拡大
産業交流団の派遣、産業展示会等の開催
- ホテル連携を中心とした産業交流イベントの実施

2 観光交流拡大

これまでは路線周知の広報を中心に実施していたが、まず28年度当初に通年デイリー運航告知を重点的に実施。また直接路線利用につながるイベントの実施や、イン・アウト双方の旅行商品造成の拡大を重点的に取り組む。両県観光担当課、観光協会(連盟)との相互連携体制を強化し、ターゲット・観光資源等を絞り込みのうえ、旅行代理店へ商品造成の働きかけを行う。

- デイリー運航記念スタートダッシュキャンペーン・観光交流イベント
- 静岡発九州周遊型旅行商品等造成・販売拡大
- 海外インバウンド客の両県周遊モデル構築

3 幅広い年齢層へのアプローチ

両県スポーツ・文化団体の交流行事、教育旅行の実施に向け、サッカー協会等団体、教育委員会との連携を強化し、事業の実施による継続的な交流を図る。

旅行者へのアンケート等により、シニア層のニーズ分析を行い、実施時期、方法等を検証の上、効果的な運賃助成を検討する。

- 富士山静岡空港サポーターズクラブ・シニア会員向けの運賃助成
- スポーツ、文化団体、教育旅行交流促進

II 取組計画

1. 産業交流による鹿児島発ビジネス需要創出

1. 取組の実施計画(案)

(1)ビジネスサポートキャンペーン(運賃助成)拡大

- ・当該路線を利用する企業、団体を対象(富士山静岡空港企業サポーターズクラブ会員企業)に運賃割引を実施(5月~12月)
※26-27年度の鹿児島県企業限定キャッシュバック制度から、**静岡県企業も対象に加える**など、制度の拡充を検討
- ・デイリー運航告知、キャンペーン情報について、メディア媒体、経済団体等広報を**4-5月に重点的に実施**し、両県企業への周知実施
- ・企業訪問(継続)及び企業へのアンケート調査等により、デイリー運航効果を検証する。

(2)双方向における産業交流拡大

- ・商工会議所等経済団体を中心とした**産業交流団の相互派遣**実施
- ・**産業展示会等の開催**(8月:静岡物産展(鹿児島)、1月:総合食品展(静岡))
- ・デイリー運航を機に、両県旅行代理店へ、出張利用可能な**フリープラン等旅行商品(航空券・宿泊・レンタカープラン)の造成**支援

(3)ホテル連携を中心とした産業交流イベントの実施

- ・両県ホテル連携による物産フェア等交流イベントの開催(8月、2月予定)
- ・静岡物産展開催(8月)と併せ、産業展示会及びトップセールスの実施(7-8月)

2. 改善した取組のポイント

- 運賃助成について、26-27年度は鹿児島県企業限定の富士山静岡空港企業サポーターズクラブ会員のキャッシュバック制度として、実施していたが、手続きの煩雑さ、また運航ダイヤの利便性の悪さから、入会企業数、利用者数が目標に達しなかった。そのため、**28年度スタート時に通年デイリー運航PRを集中的に実施**する。また対象についても、**鹿児島、静岡両県企業を対象とすることで**、産業交流の拡大につなげる。
- 4-5月の年度早期**に、両県経済団体会報誌や新聞・メディアにおいて、デイリー運航(増便)告知広告、運賃助成制度の周知を図ることで、企業サポーターズクラブ入会企業の拡大を図る。
- 産業交流にかかる体制に鹿児島銀行、鹿児島経済研究所との連携・協力を加え、新たに持続可能なビジネス需要の創出を検討する。
- 調査により、茶業関係企業(茶業、茶関係農業機械工業)の往来が夏季シーズンに多くなることや、また食品加工産業の交流はあるが、路線利用に直結していないことが判明しており、県・周辺市町の行政、茶業組合、食品関係組合等への増便、キャンペーン告知を早期に実施し、利用拡大を図る。
- 商工会議所との協力により、各産業部会等を中心に**両県を相互に往来する産業交流団派遣**を行う。
- 県経済担当部局や経済団体との連携を強化し、食品加工産業、工業関係産業等様々な産業への路線PR及び産業交流イベント・展示会開催を検討し、事業参加への運賃助成支援等により旅客増につなげられる取組を実施する。
- 通年デイリー運航を機に、**夏季ダイヤ期間中の両県発ビジネスセットフリープラン旅行商品(レンタカーオプションへの支援含む)の造成**に対する支援を行う。
- 前年に訪問した企業へのアンケート調査及び企業訪問の継続実施等により、ダイヤ改正後の利用状況の分析を実施し、航空会社と情報共有を行ない、今後のダイヤ改善、利用拡大のための方策について協議する。

II 取組計画

2. 富士山と桜島を中心とした観光交流拡大

1. 取組の実施概要

(1) デイリー運航告知PR観光交流イベント実施

- ・デイリー運航(増便)告知PRとなる**スタートダッシュキャンペーンを年度初めに集中的に実施**し、両県双方向に交流が図れる交流イベントを新たに開催(5月～) ※FDA、協議会にてキャンペーン運賃助成を検討
- ・交流イベント実施告知に併せ、デイリー運航(増便)告知PRを両県内において広報展開を実施

(2) 静岡発九州周遊型旅行商品等造成・販売拡大

- ・主に**夏季閑散期対策**として、静岡発往路鹿児島線・復路福岡線、または往路福岡線・復路鹿児島線を利用し、複数の旅行期間(2泊～4泊)を設定した**九州周遊型旅行商品の造成拡大(通年)**
- ・歴史をテーマとして**ターゲット、観光資源を絞り込んだ旅行商品の造成**及び通販テレビ番組を制作、放送するなどの**広報展開を実施(6-7月)**
- ・両県間において、メディア、代理店を対象として**ファミトリップ及び観光商談会の実施**。

(3) 海外インバウンド客の両県周遊モデル構築

- ・中国人旅行者向けの旅行商品を企画するランドオペレーターとの協議により、静岡・鹿児島を周遊するツアーの造成にかかる支援を実施
- ・海外旅行代理店、国内ランドオペレーター等を対象とする**ファミツアー、商談会実施(7月)**
- ・海外旅客(特に中国路線)が両県を周遊するモデルツアー構築

2. 改善した取組のポイント

- 広報事業について、これまでは主に鹿児島県内における路線認知度を向上させるPRを重点的に取り組んできたが、費用対効果を踏まえ、直接、利用者増加に結びつく旅行商品PRや交流イベントの実施を検討した上で、**デイリー運航スタートダッシュキャンペーン**として、静岡、鹿児島両県でのテレビCM、メディア等へのデイリー運航PR、運賃告知などの広報展開を行なう。
- 26-27年度のテレビ媒体(CM等)広報については、公募により、GRP値など広報効果の高い企画を選定・実施していたが、28年度については、26-27年度の搭乗実績と広報効果を検証したうえで、広報ターゲットの絞り込みを行うなど、より効果の高い広報展開を検討・実施する。
- 観光協会、経済団体との連携により、全国規模の産業展示会(静岡ホビーショー等)との連携イベント開催を検討し、**双方向から参加者、来場者の路線利用の拡大**を図る。
- 観光交流イベント開催にあたり、両県観光担当部局等との協議に加え、広告代理店、百貨店等集客力の高い施設等との連携を強化する。
- 静岡発九州周遊型旅行商品について、これまで夏ダイヤが週3往復のため、催行日の設定が少なかったが、デイリー運航となることから、**旅行期間を複数設定した旅行商品の造成**を働きかける。
- 旅行代理店の協力により、旅客の観光ニーズを分析し、両県観光担当部局、静岡県観光協会、鹿児島県観光連盟との定期協議を実施することで、旅行プランの見直し、検討を行う。
- **鹿児島「明治維新150年記念事業」、静岡「2017大河ドラマ事前キャンペーン」**などをテーマとして、メディア、代理店を対象にファミトリップや観光商談会を開催し、旅行代理店への商品造成支援を実施する。
- 造成支援等を契機として、既存の旅行代理店のみならず、新たに旅行商品を造成・催行する旅行代理店を拡大し、定着化させることで、**次年度以降の安定的な観光交流の確保**を図る。
- 海外からのインバウンド旅客が増加している現状を踏まえ、主に個人旅客をターゲットとした両県周遊ツアー造成の取組を検討する。

II 取組計画

3. 幅広い年齢層へのアプローチによる利用促進

1. 取組の実施概要

(1) 富士山静岡空港サポーターズクラブ・シニア会員向けの運賃助成

- ・シニア限定モニターツアーを実施(6-7月)
- ・閑散期における、シニア限定割引の実施(6-7月、9-11月、1-2月)

(2) スポーツ、文化団体、教育旅行交流促進

- ・少年サッカーチーム相互合宿等により路線利用への支援(7月、2月)
- ・両県教育委員会、スポーツ・文化関係部局による交流事業連携協議を実施(4月～)
【登山、自転車等スポーツ交流及び演劇、伝統芸能等文化交流を検討】
- ・両県学校関係者と観光関係者による教育旅行(修学旅行)にかかる協議を実施(4月～)
- ・両県学校関係者による教育旅行視察団の実施(8月)

2. 改善した取組のポイント

- 閑散期の需要対策を重点的に取り組み、特に夏季の6-7月にモニターツアー、シニア割引を中心に実施することで、閑散期の利用者数底上げを図る。
- 昨年実施したツアー参加者へのアンケート調査により、歴史、史跡にかかる観光資源への来訪ニーズが高いことが判明したことで、旅行代理店及び静岡県観光協会、鹿児島県観光連盟の協力により、シニア層の旅行ニーズを踏まえた両県の歴史、史跡巡りなどのツアー造成を検討する。
- モニターツアー実施後の利用者アンケート等を随時分析し、観光関係団体、部局との協議により、新たな観光資源を加えたツアー検討を行う。
- 両県サッカー協会との協力を得ることで、少年サッカーチームの相互交流となる事業を実施し、次年度以降の定期交流を目指す。
- 両県教育委員会、スポーツ・文化関係部局との連携を開始し、両県における少年スポーツ、文化交流事業の実施検討及び教育旅行(修学旅行)による交流促進を図る。
- 教育旅行の実施・検討に際し、両県観光担当部局、世界遺産担当部局、文化担当部局及び関係市町村行政との連携も加える。